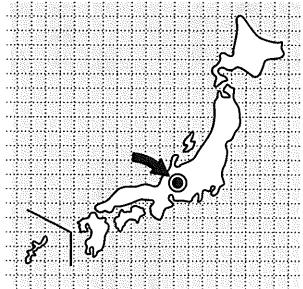
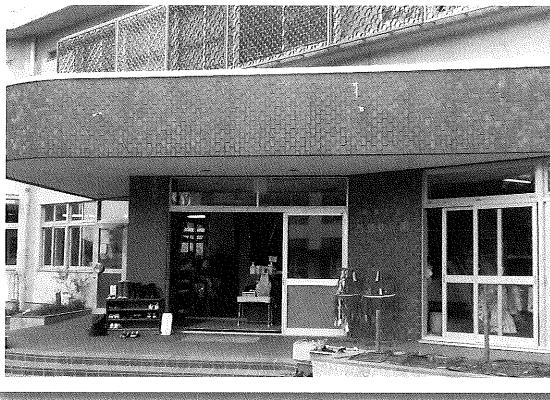


大イチョウの下で



今号のレポーター

大橋利恵子

元名古屋女子大学非常勤講師。
子育て支援てっての会運営メン
バー。幼稚園の生活を土台に、
「幼児教育」を考え続けていま
す。

岐阜市立加納幼稚園（岐阜県岐阜市）
三十七年前に加納幼稚園に就職して、それから約三十年、
岐阜市立の公立幼稚園で子どもたちと生活をしました。
今回、変わらない大イチョウを見上げながら、楽しく訪
問させてもらいました。

岐阜市は名古屋から20分の通勤圏で、JR岐阜駅の北には、柳ヶ瀬、金華山と長良川があり、道三、信長とかかわる歴史ある場所です。

その岐阜駅の南の地域が加納で、住宅街となっています。昔、奥平氏が居城としていた城跡に、今回訪問した岐阜市立加納幼稚園があります。岐阜県師範学校の付属幼稚園として市立加納小学校内に併設され、昭和五十七年、岐阜市立加納幼稚園として独立し、コンクリート二階建ての園舎となりました。

加納小学校との境には、城郭のころからそびえ立つ大イチョウの木があり、その木の周りは格好の遊び場となっています。

加納幼稚園には現在、五歳児40名、四歳児32名、三歳児27名の計99名の園児がおり、毎日生活をしていますが、園長、教頭、担任教員以外に、補助教員、養護教員、給食調理員、事務員、園務員とそれぞれの仕事を担当してくれる人材が配置され、恵まれた環境になっています。

教育目標は「美しい心で生き生きと遊ぶ加納の子」。

進んで遊びに取り組む子、丈夫な体で強い心を持つ子、思いやりのある優しい子、自分で見つけ、考え、作り出す子ということで、毎日、自らが遊びに没頭する中で、周りの人とかかわり、考え、試し、発見することができるよう、成長を見守っているのだそうです。



▲大イチョウの下で



▲ことばの教室園舎

また、昨年度までは園内にあった「ことばの教室」が、今年度から園庭に新園舎が建てられ独立しました。なかなか言葉が出ないお子さんや、吃音や発音が不明瞭なお子さんなどが通園してきて指導を受けています。同じ敷地内ということで、指導者が園庭に出てきて指導することも可能だということです。

子どもの生活

私が久しぶりに加納幼稚園を訪れた日は、五月の連休明けでした。

四月の入園式から、朝、「おはよう！」と元気に登園できるようになつたその日まで、園生活に慣れて自分で遊べるように、どれだけ先生たちが声を掛け手を掛けしてこられたか、想像ができる場面がたく

さんありました。子どもたちにとつては、知らない場所で、自分で考えて遊び始めるのは簡単なことでないのは当たり前で、まだ先生に抱っこされたり、少し困るとお母さんと一緒に泣きだしたり、お姉ちゃんにくつづいていたりする姿も見られました。でもその子たちも、この園庭で遊びたい、先生が大好きと思い始めているのもよく伝わってきて、うれしい思いでした。

その日は良いお天気だったので、さわやかな風が吹く中、園庭いっぱいに子どもたちが遊んでいました。

大イチヨウの下ではままごと、忍者ごっこ、探検隊ごっこ、滑り台、ドッジボールなどなど、さまざま遊びが展開されていました。

砂場では長いとい



▲ドッジボール

組み合わせて水を流してみたり泥団子を作ったり、総合遊具では鬼ごっこをしたりと、その遊びは自由でのびのびとしていました。

園庭の隅で園長先生が花の手入れをしていると、土の中から幼虫

が出てきました。それを見つけた子どもたちは「カブトムシだ！」と言つてうれしそう。「カブトムシ知つているの？」「うん！」「これがカブトムシになるのかなあ？」「なるよ！」「なるといいねえ」。そんな会話が交わされる中にも、子どもたちが自分で見つけることを誘導していらっしゃるのがわかりました。

保育室の中でも、いろいろな遊びが展開されていました。ままごとコーナー、制作コーナーなどが常設されており、スカートやら風呂敷やらを身にまと

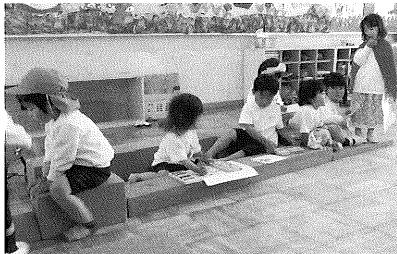


▲総合遊具

つたり、空き箱をイメージに合わせて組み立てたりしていました。

写真を撮つていたら、目の前で五歳児男子二人のけんかが始まつてしましました。片方が強く手を引っ張つていたら、引っ張られたほうの男の子が思わずかみつきました。

これは放つておけない事態だということで止めに入り、「どうしたらしい？」と聞くと、すぐに養護教員の名前が出て、保健室に行くと言いました。けがをしたり気分が悪くなつたりしたら治してくれる先生がいる、と子どもたちの生活の中に根付いていて、小学校・中学校と同様に、幼稚園には養護の先生がとても大切だと思いました。普段は、けがの治療はもちろん、発育測定、風邪の予防、自園で調理している給食を通しての食育、衛生管理とたくさんのことをおられます。



▲保育室（積み木）

水と遊ぶ

この日、五月にしては気温が高めだったこともあります。さまざまな遊びをしている中でも、水にかかわる遊びがたくさん展開されていました。一つの素材で一つの遊び方ではない環境構成は、加納幼稚園の教育の柱ともいうべきところかもしれないと感じました。

夏になり、全身水の中に入つて遊ぶプール遊びの時期になれば、水での遊びはその遊び方に集中してきます。しかし、五月、六月の日差しの強い日には、「水を使つて遊ぶ」とが心地よく、子どもたちが最も好むところかもしれません。



先ほど紹介

した砂場では、バケツで水を運び、組み合

わせたといか

ら砂場に流し

込むことを楽

しんでいまし

た。水がよく流れるように

するにはどう

したらいいの

か、水がたま

るようにする

にはどうする

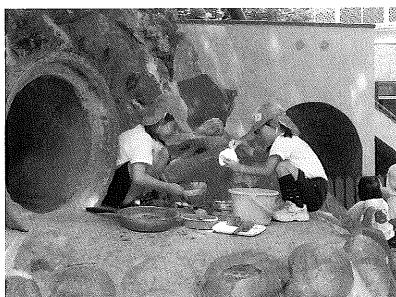
のがいいのか、

砂場近くに置かれたベビーバスから何で水をくん

で運ぶか、遊びながらさまざまな試行錯誤がなされていました。



花壇のお花を先生が摘んでかごに置いておくと、色水作りが始まります。プラスチックのボールとかごをセットにして、花弁と水を入れて手でもみます。「見て、こんな色が出た!」「どれどれ、それ、どのお花?」。そんな会話が行き交い、かごを取り除くと、ボールに色水だけが残る仕組みです。出来た色水はジョウゴでペットボトルの中に入れて持ち運びするのですが、家庭ではジョウゴを使うことなどなかなかできないと思われ、良い経験でしょう。



▲ままごと
園庭の好きな場所で水と砂を使ってままごと遊びをしている姿もありました。お友達とおしゃべりしながら、ああやつてみよう、こうやってみようとイメージして、最後に「できた!」と感じられることがいいですね。

そして、色水から少し離れた所に、お絵かきコーナーが用意されていました。カップに絵の具を溶き、筆をさしてかごに並べられていました。描きたいと思つた子どもたちは、そのカップを持ってきて、そこに立てられたアクリル板に自由に筆を走らせます。白ボードに水性ペンのいたずら書きさというのはよく



▲ターレル化い



▲お絵かき

ありますが、園庭で絵の具でというのではなく、汚れてもいい、という覚悟のもと、その筆を走らせる感触を楽しんでいるわけで、これは面白そうと思われました。

足洗い場の水道の下には大きなたらいが置かれ、入って足を洗います。蛇口に付けられたホースや水飲み場の蛇口から水を飛ばして遊ぶのは、一度はやつてみたい遊びで、ついつい挑戦して濡れた後は自分で着替える、そのための着替えと、ござ、タオルなどはいつも用意していました。

一つの素材で子どもたちが自由に発想し、試して遊ぶことができる、そんな環境構成こそが大切なことだと、久しぶりの現場で思い出されました。



▲足洗い場

おわりに

その日、図書コーナーでお母さんたちが図書整理

どうして後ろ向きに滑りたかったのかもしれません。きっと、どうしようか考えていましたのでしょう。

加納幼稚園の保育はどこでもなされている保育かもしれません。でも、この自由感と環境構成は、まさに子どもが育つ場所だと思えました。

園の存在意義が問われがちな昨今、親の出番が多いと言われる方もいますけれど、子ども同士が同級生という出会いはある意味運命的であり、親自身に与えられたチャンスだと思います。子どもたちが育つ環境を仲間でつくり出し維持していくのはとても価値のあることで、その結果、良い絵本を毎晩読み聞かせられるとしたら、素晴らしいことと思えました。

そして最後に、ここで育った子どもの知恵を一つ。その子は大イチヨウの下の滑り台を、下から駆け昇っていました。遊び方も自由なのかなあと見ていてたら、やっぱり先生が「上から滑る約束でしよう」と注意をしていかれました。

少しうろつとしていたその男の子は、横の階段を上つて、今度は後ろ向きに座つて滑つてきました。



— 訪問メモ —

訪問時期：2014年5月

訪問場所：岐皇市立加納幼稚園

〔住所〕岐阜県岐阜市加納東丸町2-9-1

[電話] 058-272-1077